

○ 20番（松尾初秋君）〔登壇〕

おはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、20番松尾初秋の一般質問をさせていただきます。質問の方は6項目でございます。答弁の方は簡潔で正確にお願い申し上げます。

現在、武雄競輪の開催案内などの宣伝はどのように行っておるのか、まずお尋ねいたします。

○ 議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○ 松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

現在、競輪の宣伝でございますけれども、新聞広告、それから日程看板の設置、それと広報車によります街宣等を行っております。

○ 議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○ 20番（松尾初秋君）〔登壇〕

私も競輪は余り行かないんですけども、たまたま開催案内の看板のところを通ったら、ああ、きょうは競輪があいよるなということがわかるわけですね。通らんぎわからんし、そういう意味では、私はごみ収集をしておる清掃業者のパッカー車を利用しての競輪の開催案内等をできないかと思うわけでございます。実は、市長もがばいばあちゃんの宣伝を四駆の市長車にべたべたべたと張っちゃったですもんね。あれは何かマグネットシールというらしいですけども、もちろん私の提案は業者が協力していただけるということの前提のもとでございますけれども、費用も余りかからんと思うわけですね、シール代だけでいいし。そして、やっぱり張りに行ったり外しに行ったりするのは市の職員が行けば業者の負担もないと思いますので、4月から機構改革で営業部もつくられる予定ですね。それで、その中に競輪も入るわけだし、質問といたしましては、競輪の宣伝のパッカー車の利用等についてどうなのか、お尋ねします。

○ 議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○ 松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

議員御提案の件につきましては、関係事業者の方等も含めまして、一緒に検討させていただきたいというふうに思います。

○ 議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は広告は大好きでございますので、お答えしたいと思います。

そもそも、私もパッカー車というとは議員から事前に聞いて、これはなるほど、そうだというふうに思いました。しかし、そこに開催日を入れるとか武雄競輪っていった場合に、果たしてごみ収集車とそういう競輪のイメージ、あるいは開催日というのがマッチするかどうか。恐らくごみ収集車の場合は、例えば資源再生型のエコバッグの普及とか、そういった方が、見る方にとっても何となくつながるのではないかなというふうに思っています。ただ、指摘の件については、先ほど部長が答弁したとおりに、ちょっとこちらの方で検討をしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

エコバッグとかそういうふうなとに利用したらーイメージが合わないという話がありましたけれども、効果は結構あると思うんですよ。ぐるぐる回っているからですよ。そして、赤字でも市長は競輪を続けていくという話をされておりましたので、私もそれに同調しますよと言うた以上は、やっぱりいろいろな知恵を絞っていかなくちゃいけないと思いますので、これも含めて再度考えていただきたいと思います。

では、今度は指摘になります。実は、3月5日の市長の演告でサテライト武雄の移転が ok するという報告がありました。事前調査のためということですね、調査不足のため。よう調べたらですよ、これは用途制限にひっかかって、すぐに建てられないという話なんですよ。私もびっくりしたわけですよ。たまげました。通常起こり得ないミスだと思います。民間が建てて官が借りる、そういうものですが、民間が建てて民間が借りても、このようなミスは滅多になかわけですよ。

それで、この件での市のかかわりとしては、12月の議会での答弁等を見ますと、夏に入る前から競輪事業課と物産館の方で移転に向けて、ようっと協議をされているわけですよ。それに、12月にこれに関する関連予算を計上するに当たって、庁議というんですかね、どうかよくわかりませんが、部長会等でこういう話もあったと思いますが、そこで気づく人がいなかったのがまず不思議だなと思うわけですよ。それ相応の担当の部長さんもおられると思いますし、その辺がなっとらんなあという感じがします。それに、何と云っても、そもそもこの用途制限のパンフレットは市役所にあるわけですよ。だから、私はこの全部の責任はないとしても、このおくれた責任は市の方にもあると思いますが、どうなのか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

サテライト武雄の移転につきましては、本年度中に実施をすることといたしておりましたが、施設の建設にかかわる用途区域の事前調査不足によりまして、年度内の移転というのが困難になっております。これにつきましては、まことに申しわけなく思っておりまして、おわびを申し上げます。

なお、今後の事務処理につきましては万全を期してまいる所存でございますので、よろしくお願いをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

素直に反省されたので、もうこのことについては追及はしないようにします。今後このようなことがないように、しっかり進めていただきたいと思います。

次に、白岩運動公園の安全対策についてお尋ねしていきたいと思います。

近年、白岩周辺で何か子供に対する事件等も起っておるやに聞きます。それに、この白岩運動公園のところ、市道白岩公園線のところには公園を照らす電灯が3基あるわけですね。これはどういう道かといえば、体育館の方から来る道なんですけれども、そこには電灯がありますけれども、市道笹橋野間線、ここは電灯がなかわけですね。道を照らすような電灯はありました。でも、公園を照らすような電灯がなかわけですよ。

それで、子供たちが武雄陸上クラブですかね、これは私も電話で問い合わせをしましたけれども、小学生が100人ぐらいこれに通っておられるんですよ。そして、そのうち50人ぐらいが自転車で通われているということも聞いております。そして、毎週木曜日、6時半から7時半まで練習があつて、もう7時半というのは大体暗いでもんね。だから、この辺が薄暗いので、これを明るくしていただきたいし、その横にはスケボーをしている青年たちもいます。薄暗いのでけがをすることもあると思いますので、いずれにしても、小学生の子供たちが自転車等をとめている階段付近、この辺を明るくしていただきたいと思いますけれども、要望的な質問になりますが、この子供たちが自転車をとめている白岩の階段付近が薄暗いので、安全対策の一環として電灯をつけていただきたいと思いますけれども、いかがでございましょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私の方から答弁をいたします。

今白岩、（白岩運動公園外灯設置予定箇所を示す）これは武雄側で北の方になりますけれども、この青の部分が当初から立っておる電灯であります。それと、追加で14年とか17年と

か設置したのが黄色であります。今の状況は青と黄色の状況にあります。それで、先ほど御指摘は、これは市民、私もいろんなところから要望を受けておりますので、できない理由よりできる理由を考えようということで、この赤の3基を新たに設置したいというふうに考えております。設置については4月じゅうに行いたいというふうに思っております。

ただお願いは、この辺ごみがいっぱい散乱しておるわけですね。電気ばつくっぎんた、ごみが明るく照らされて汚う見えるわけですね。したがって、議員各位におかれても、ごみを見つけれられた場合は、やっぱりこれは捨てたらいかんばいとか、あるいは言いにくいことでもありますけど、私もやっておりますけれども、持ち帰っていただくといったこともあわせてお願いをしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

明るくなるからごみの方が目立っていけないという話でしたけれども、明るくなるごみは捨てんですもんね。大体暗かところにごみばぱっと捨てるとですよ。大体そういうふうに思います。

次は、学校給食費の未納についてお尋ねをしていきたいと思います。

新聞によりますと、未納が全国で9万9,000人、総額22億円ほどあるそうです。佐賀県は28,160千円が未納だと聞いております。市の方からも資料をいただきました。未納実態ということで、平成19年3月1日現在、市内の小学校3校16人、中学校1校6人、計22人の537,132円が滞納らしいです。質問になりますけれども、この中で本当に払えない人もいます。意図的に払わない人もいるかもわかりません。この資料の分析はやっているのか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

給食費の徴収につきましては、本当に保護者の皆さん方も子供たちの給食の充実ということで御協力いただいておりますが、先ほど議員おっしゃいましたように、まだ少しきついというので、パーセントでいきますというと、新聞で行いましたときは0.3%でございましたけれども、3月現在では0.2%と、大分回復をしてきております。意図的なのかどうなのか、これにつきましては非常に難しゅうございまして、学校の方といたしましては、とにかく電話連絡、あるいは家庭訪問、あるいは督促と、いろいろなところで頑張っております。しかしこれを、ここは当然納めていただこうということ、ここは無理だと、そういう選別というものは非常に難しいというのが現状でございます。ただお願いをしているということ

でございます。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

分別というか、そういうふうな分析が難しいという答弁だったと思います。文科省の調査では、保護者としての責任感や規範の意識の低下が60%、生活が苦しくて払えない人33%となっておりまして、文科省でも簡易な分析ですね。これは難しい分析じゃないですよ。簡易な分析は、私はできると思うわけですよ。それをしなくては、この問題の解決には私はつながらないだろうと思います。これは資料をもらいました。何人、何人、これはただの統計ですもんね、はっきり言って。だから、そういうふうにやっぱり分析に力を入れてほしいと思うわけですよ。簡易な分析でいいです。文科省の場合は、学校の担任が家庭訪問をして、その印象から判断をされたということです。そういうふうなことをまずしていったって、この解決につなげていってもらいたいと私は思います。

そこで、払えない人の救済制度として、就学援助制度があるらしいです。これは資料をいただきました。読み上げます、全部は読みませんが。

就学援助制度について、武雄市教育委員会ということで、就学援助とは、市内に在住し、市内の小・中学校に通うお子さんがいる世帯で、経済的な理由により、学用品や給食費の支払いにお困りの御家庭に対して、その費用の一部を援助する制度です。

ということで、給食費は実費ということで、これは確認しましたがけれども、全額出るらしいです。そこで、まずこの制度を利用している人は市内にどのくらいいるのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

小学生が205名、中学生が111名でございます。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

今300人ぐらいの数字を言われました。私は、この未納者22人の保護者の中にも、この制度を利用できる人がいるのではないかなと思うわけですよ。制度があること自体知らない人もいるかも知れません。最初に私がお話しましたがけれども、全国的に見ると33%が経済的な理由で払えないとするならば、22人の33%で、このうちの7人ぐらいは――これはあくまでも私の推計です。この制度を利用できるかも知れないと考えます。

そこで質問となりますけれども、未納者に対して援助制度の積極的な利用の案内などはや

っているのか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

就学援助制度につきましては、武雄市教育委員会といたしましても、新学期や入学時のときにプリントとして配付をさせてもらっておりますし、民生児童委員の皆さん方の各地区の説明会のときにも、この制度につきましては紹介をさせていただいております。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

その新学期にやるのは、それはだいでんやとでしよう、とりあえず。恐らくそうですよね。そのときはいっぱい書類の来るわけですよ。あれじゃなか、これじゃなかて言うて、そのときはぴんと来ませんよ、はっきり言って。で、やっぱりそういうふうな未納者の中にも、そういうふうなとば積極的に私はお声をかけて、こういう制度もありますよということで、それに合致する人がいれば、それだけそういう制度を利用して、給食費の滞納を少しでも減らすことができると思うわけですよ。教育長が言いんさあとは、それは最初にみんなに一律にやる話でしよう、はっきり言って。私は、そういう未納者に対して援助制度の積極的な利用を働きかけてくださいと。働きかけるというとはおかしいですね。そういうふうに案内をしていただきたいと思いますけれども、再度その辺はどうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

随時、この制度の紹介というものは現在もやっているところでございまして、学校によりますと、途中で準要保護の申請というものが出されております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

松尾議員と同じ政治家として答えたいと思います。

これは行政が――さっき教育長から答弁があったように4月に投げるといったことで、随時というのはなかなか厳しいというふうに思っております。というのは、もっと大事なことをお知らせしたりとかあると思います。したがって……

〔20番「ちょっと待って、最初は全部配るとでしよう」〕

配っても、それは随時というとは、なかなか私はこれだけの問題――例えばいじめの問題であるとか、いろんなさまざまな問題があつて、余り配り過ぎたら、それこそ広告効果とい

うとが薄れるわけですね。教育効果というのが薄れる。したがって、ここは我々政治家が補完的な作用ば果たさんばいいかと思っております。すなわち、例えば市政相談をするであるとか、あるいは地区で勉強会をするとか、あるいはこういうケーブルワンで放送されること自体も、これは制度の宣伝につながっていると思います。したがって、こういう質問をしていただけること、そして、今後の議員の例えば市政報告会とか市政相談とか、そういったことでぜひ御協力を賜りたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

私もそういう相談を受けたら、その都度こういうふうなとは紹介もしていきますけれども、まずは何といひかな、最初にばーっとやるとに対して私はどうかこうとか言いよらんわけですね。実際そういう払われない人のおんさあぎですよ、そういう人たちに個々に案内をしたらどうでしょうかということです。もういいです。

次に、未納者の中に、払えるのに払わない保護者がいるかも知れません。新聞等によりますと、高級車を2台持っていながら、後で払うけんと言うばかりでいっちゃん払わん人、困った保護者の話が載っておりました。悪質な未納者には、私は厳しい対応が必要だと思っております。

千葉県の大網白里町の教育委員会は、給食費の未納が多かったために、教育委員会より学校へ3カ月未納が続いた場合は給食を停止するというような厳しい対応をされておるようでございます。私は、本当にこういうふうな悪質な未納者がある場合は、そういうふうな学校の給食委員会に給食停止を含む厳しい対応をとるように助言をしてはどうかと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

今「悪質な」という言葉をお使いになりましたが、そういう方が全国的には新聞等でも出ているようでございます。しかし、本市におきましては、そういう方は私はいらっしゃらないと信じております。各学校におきましては、学校の給食運営委員会、あるいはセンターの運営委員会の中で、これまでも督促をし、あるいは家庭訪問をし、あるいはPTAの会長等も家庭訪問等をして、その実情を訴えてきたわけでございまして、先ほど申しましたように、少しではありますが、御協力をいただき、何とか払おうという気持ちはあらわれてきているわけでございます。本市の場合に、意図的に、一方の日常生活につきましては豪華な生活をしている、あるいは一方では、当然払えるような方であるのに払わないと、こういうことは無いというふうに思っておりますので、教育委員会といたしましては、これまでどおりに

学校の方の運営委員会等に、積極的な督促等を含めまして、粘り強く徴収の方に頑張っている
ただこうということをお願いをしていくつもりでございます。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

本市にはいないという話ですけれども、分析もせんでどがんわかとですかね。最初分析
もしとんさんとでしょう。そこんたいが私もよくわかりません。分析をまずしてからとい
うことが大事だと思いますけれども、今の答弁の中には、推測だと思いますけれども、教育
長さんは、本市にはそういうような人はいないという話でございましたけれども、分析もせ
んでそこんたいがようわかるなというのが私は不思議でなりません。

悪質な未納者がいれば、これは全体の給食に影響を及ぼすわけですよね。要するに、品数
が減ったり質を落としたりするわけですよ。今食育、食育と言われている中、全体の食育に
悪影響を及ぼすようなことがあっては絶対ならんと私は考えます。教育委員会の方ではそれ
なりの考えが、法的にされるのか、それは私たちはよくわかりませんよ。そういう答弁もい
ただいていませんけど、粘り強く回収の方に頑張られるのかよくわかりませんけれども、そ
ういうふうな一つの例を出しましたけど、私はそのような厳しいやり方の一つの方法ではな
いかなとは思っております。

滞納があった場合、命の源である水、水道だってとまるわけですよね。ちょっと参考にお
尋ねしますけれども、水道はどのくらいでとまるんですか。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤水道部長

○伊藤水道部長〔登壇〕

水道の停水措置ですけれども、まずもって未納者全体に催告状を出します。これは納入期
限つきです。その後個別訪問をして、どうしても連絡がつかない方について、この間停水予
告という形になるわけですけれども、停水を行う方については、現年3カ月以上の滞納者と
いうことで行うことを内部で取り決めてやっておるところでございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

参考の意見なので、もういろいろ言うことはありませんけれども、全国に9万9,000人の
未納者がいるようですが、その中には、武雄にはそういうのはいないと思いますけれども、
子供の給食費は払わんであって、その子供を塾にやる親もおるっちゃんかなかなと思うわけ
ですよね。いい学校にやりたいために、当然払わんばいかん給食費は払わんで、いい学校にや

りたいために塾等にやっている家庭もあるかも知れません。質問として、武雄の未納者にはそういうのはいないのか。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

塾と給食費の関係、これにつきましては、調査をしておりません。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

次に、高校誘致についてお尋ねしていきたいと思います。

実は、佐賀新聞でございますけれども、これは去年、平成18年12月14日の新聞でございます。「中高一貫の女子校武雄進出を検討」ということで、「難関大を目指す進学校に」ということで、「武雄市の樋渡啓祐市長は13日、九州外の学校法人が中高一貫による女子校の市内への新設を検討していることを明らかにした。東京大など難関校を目指す進学校とする計画」ということで、詳しくはいろいろ書いてありますけれども、中高一貫の女子校として新設する構想で、神戸市の灘中高や、鹿児島市のラサールなどと並ぶ進学校にしたいという話でございました。質問として、そういうふうな灘中高やラサール程度の学校に行ける学力のある女子の生徒が市内にどのくらいいるのか。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

子供たちには限りない力があるわけでございます。こういう力を磨くのも日常の教育実践でございます。そういうことで、今議員さんおっしゃるようなすばらしい子供たちが一人でも育つように、夢を持ち、ふるさとを愛する元気な武雄っ子という視点で頑張ってまいりたいと思います。今そういう子供さんがいらっしゃる、いらっしゃらない、これは私にはわかりません。子供たちの努力があるのみだと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

じゃあ、質問の仕方を変えます。そういう学校に行っている方は過去どのくらいおったのか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

先ほど校名が出ましたが、そういう校名につきまして、過去３年間調べてみました。該当者はおりません。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

私は、武雄のごくごく一部の人が入れないような学校を誘致される、本当に市民は喜ぶのでしょうかと思います。私が、市民が求めているのは、優秀でないかも知れない男子の子供たちが行けるような私立の高校ではないでしょうか。杵藤地区にはありません。女子は佐賀女子校の武雄校舎がありますが、男子は佐賀か伊万里まで行かなくてはなりません。私立と県立、授業料は私立が高いとは聞いておりますけれども、それはそれで仕方ないことかも知りませんが、電車賃もかかるわけですね。私は保護者の立場になれば、保護者の負担は大変ではないかと思っております。質問として、県立と私立の学費の違い、電車賃についてお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

まず、授業料について申し上げます。県立高校につきましては、年間9,600円、私立につきましては、約22千円となっています。ただ、私立高校は入学時に入学金というのが100千円相当あるようでございます。

それから、交通費でございますが、これは武雄温泉駅から佐賀まで調べてみました。ＪＲを利用した場合に、年間88千円ばかりかかるようでございます。

〔20番「間違うとらん、そがん安かとやろうか」〕

訂正させていただきます。月額9,600円、それから、私立が22千円。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

学費は仕方ないかも知りませんが、電車賃ですね。年間88千円ほどかかるということで、もしそういうのがあれば、親は大分助かるとですよ。――と思います、親の立場で考えれば。質問といたしまして、杵藤地区からこういうふうな私立の高校に通っている男子の生徒数はどのくらいいるのか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

杵藤地区から県内６校の私立高校への進学者数ということで、まず述べさせていただきます

すが、5月1日、これは統計を51統計といってとるわけですが、総数で562名、1学年平均しますというと、187名と伺っております。この男子、女子の割合というのが、この調査ではわからないわけですが、私どもの武雄市でございますが、250名おりまして、大体1学年83名ぐらいと。大体半分と見ましても100名ちょっとぐらいが市内の場合は男子だと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

私も、もう何年ぐらい前ですかね、こういう中高一貫の関係で質問をした覚えがございます。そのときは樋渡教育長さんだっと思いますけれども、3年か4年ぐらい前じゃなかったかなと思っておりますけれども、そのとき私も県の方の教育委員会に大分いろいろ調査に行きました。そのときに言われた話は、結局今は青陵中学校で武雄高校と一括の中高一貫が行われ、ことしの4月から始まるやに聞いておりますけれども、将来的な話ですけれども、子供の数がずうっと減っていくから、将来的には一つの方に行くだろうという話でした。どっちに行くかわかりませんよ。武高の方に中学校が来るのか、中学校の方に高校の部分が来るのかよくわかりませんが、そのうち校舎が余るだろうという話でございました。

で、私もこの話を市の教育委員会の方に確認をとってもらったんですが、計画は今の段階ではないという返答でございました。それはそれで、今立ち上がったばかりでそういうことをいろいろ言ったら波風が立つから、そういうふうな話はなかったかなと私は推測はしておりますけれども、そのときは確かにそういう話をされました。子供は減ると。だから、将来的には校舎が余りますよと。まあそうなるでしょうね、そう思います。

そこで、樋渡市長さんの情報収集力と政治力で、優秀でないかもわからない子供たちが行けるような男子の私立高校の誘致に私は力を入れていただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほど議員が言われたのは、佐賀新聞でしたっけね。

〔20番「はい、そうそう。佐賀新聞です」〕

これは正確に、まず議会で私がこういう話があるということを申し上げたことだというふうに思っています。その上で、私は基本的にはいろんな学校に来てほしいと。自前でつくるお金もありませんし、来てほしいということは考えております。ただ、私はその中の一つの女子の進学校が武雄にぜひ来たいと。ただ、条件が新幹線、これはフリーゲージでもフル規格でも構わんという話ですけれども、やってほしいと。そうすることによって、長崎が通学

圏内になるわけですね。この理事長は、長崎を毎日の通学圏内にしたいということで、新幹線を条件で、これは多分新聞の見出しにあったと思いますけれども、そういうことを言われております。私にしてみれば、もう千客万来、いろんなところに来てほしいと。ただ、私のところに一つ来ている情報として、まずもって議会の皆さんに御報告、御披露をした次第であります。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

そのるる女子校の話はわかりましたけれども、男子のこういう高校に何とか力を入れていただきたいと私は思います。一番やっぱりニーズ的にそういうのがこの地区、杵藤地区も含めて、その辺が一番おくれていると思います。女子校もいいでしょう。ごく一部の人しか入れない学校もそれは誘致という意味ではいいでしょう。でも、武雄市民が本当に諸手を挙げて喜ぶのはどちらかなと考えます。そっちの方にも、市長の政治力と情報収集力で、一生懸命インターネットなどで拾いながら、あちこち情報を飛ばして、誘致に力を入れていただきたいと私は思っております。

それでは、次に、市の委託契約についてのことでお尋ねをしていきたいと思います。実は、これは市と委託契約を結んでおる志久地区鉱害被害者組合についてお尋ねをしていきたいと思います。鉱害というのは、鉱山の鉱害でございます。

実は、条例の中にこのことが載っております、条例集の9,720ページに武雄市志久排水機場設置条例ということで、その3条の中に管理委託ですね、市長は排水機場の管理を志久地区鉱害被害者組合に委託するというので、ちゃんと明記された団体でございますが、この組合は平成7年以降、この排水機場の管理をされているやに聞きます。私のところに複数の組合員の方から相談がありました。内容は、この組合が民主的な運営が行われていないという内容でした。報告もなく、総会もなく、もちろん会計報告も何もあいよらんと。どがんないよっじゃいわからんという話でございました。そこで、事実確認をしていきたいと思えます。市の委託先であるこの組合は、総会はあるのか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

定期総会につきましては、実施されていないという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

総会があっていないということで確認しましたがけれども、本来は、この委託先に関する書類等は、市は掌握しとかんばいかんと思うわけですね。手に入るとかんばいかんと思います、相手先ですから。これは、今保養村は指定管理者制度になっておりますけれども、前、私の地区には保養村協力がが保養村の管理を委託しておりましたけど、そのときもちゃんと総会の資料もとっておられたし、何でもそういうふうな書類は役所の方にはそろっておりました。これが当たり前だと思います。私もこの志久地区鉱害被害者組合のことをちょっと調べましたがけれども、役所の方には組合員の名簿もないようですね。ただ、組合員を特定できる別の名簿はあるらしいです。でも、本来ならば、正式な志久地区鉱害被害者組合の組合員の名簿は書類として役所にきちっと保管しておかなくてはいけないと思うわけですよ。委託先ですから。そこで、事実確認をしていきたいと思います。市の委託先であるこの組合の役員名簿は、書類としてあるのか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

役員名簿につきましては、聞き取りによりまして役員さんの確認はできますけれども、役員名簿という正式な名簿はいただいております。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

さっき言ったでしょう。本来ならば、そういうような保管をすべきだということでちゃんとと言いましたけれども、保管もされていないということでございます。保管はされていない、今わかりました。

じゃあ、この組合の規約ですね。やっぱり組合だから規約があると思いますけれども、規約の方は書類として保管してあるのか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

当組合の規約でございますが、当組合は北方町の鉱害被害者組合の下部組織的な役割を担っているということから、組合規約につきましては、これまで町の組合規約に準じて運営されているということで、この組合規約というのはございません。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○ 20番（松尾初秋君）〔登壇〕

じゃあ規約自体がもともとないんですか。どうですか。

○ 議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○ 松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

当組合の規約はございません。

○ 議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○ 20番（松尾初秋君）〔登壇〕

これはでたらめじゃなかかと思うわけですよ。それはやっぱり、そのような規約をつくるように指導をせんばいかんやったと思いますよ。ちゃんと例規集にうたっている相手先ですよ。じゃあ今まで12年間も、これは契約が平成7年からあっていると思いますので、北方町時代のことだと思いますけれども、ずうっとそれはなかったわけですか。それじゃあいかんと思いますよ。どこのだれじゃいわからんごたところ市に委託、それも委託金は平成17年度やったですかね、1,200千円ぐらい払っておるでしょう。でたらめじゃないですか。指摘は指摘として、今後について話を進めていきたいと思います。

自治法上でもそのような、特に地方公共団体の長が委託を受けた者に対して調査をし、報告を求めることができるとなっております。まず第1に、この組合の規約等の書類を、ない分はつくってでもちゃんと取り寄せてくださいよ。保管してください。そして、民主的な運営をするためにも、総会を行うように指導をしていただきたい。できれば、毎年これは更新されておるもので、更新時にそういうふうな書類等を、総会資料等の提出をうたっていたきたいと思うわけですよ。以上の点についてどうなのか。これは、委託者である市長に答弁をお願いしたいと思います。

○ 議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○ 樋渡市長〔登壇〕

私もこの話を聞いたときにはびっくりしました。今どきにこがんことのあつとかねというふうに率直に思いました。したがって、委託者である私の方から総会の開催並びに規約の作成を求め、その提出については求めたいというふうに思っております。

○ 議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○ 20番（松尾初秋君）〔登壇〕

いずれにしても、民主的な組織になるように市長の方からもよろしくお願いします。

では、新幹線についてお尋ねをしていきたいと思います。

新幹線を取り巻く状況が昨年とことしでは大分変わってきた、厳しくなってきたと私は思っております。それは、新聞でずうっと説明をします。まず第一に、12月5日の佐賀新聞ですけれども、「自民党着工条件見直し検討へ」ということで、九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設問題に関して、自民党の調査会が、沿線自治体の同意が必要ない形で着工条件の見直しを検討する可能性が浮上したと。で、いろいろ書いていますけれども、浮上した条件見直しは知事の同意だけで着工できる、いわば奥の手というふうに載っておりました。

ことしになって、これは新しい新聞ですね、3月1日の佐賀新聞です。「長崎新幹線『着工条件変えず』」ということで、冬柴国土交通大臣は28日の衆議院予算委員会で、「自民党内から見直し論が出ている着工条件について、『これまでも（並行在来線の）沿線自治体の同意が必要であるとして、確固として守ってきている。変えるつもりはない』と述べた。」というので、去年の暮れぐらいからことしになって、大分状況が私は厳しくなっていると思います。私も推進派の1人です。本当に新幹線ができるのか、大変不安になっております。

そこで、これは私も思いますけれども、この同意が沿線自治体の同意でも知事の同意でも、私はどちらでもいいんじゃないかなと思うわけですよ。法で規定はされていないだろうと、法の縛りはないだろうと思います。その点についてどうなのか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、法律の全国新幹線鉄道整備法においては、沿線の首長の同意は要らんわけですね。知事の同意があれば法はできるということになっておりますけれども、じゃあなぜ並行在来線の沿線自治体の首長の同意が必要かというと、これは政府・与党合意で決められておるわけですね。政府・与党合意でその同意をとらにやいかんということが記載をされております。これは平成16年12月16日、整備新幹線の取り扱いについて、並行在来線の経営分離については、地方公共団体の同意の取りつけと基本条件を整えることを確認した上で行うということになっていきますので、二つあるわけですね。法律では要らんと言っておって、政府・与党合意では要りますというふうに、非常に我々の世界からすっぴんた、ある意味いびつな状態になっておるということです。

それで、私の理解では、冬柴国土交通大臣のさきの大串議員に対する答弁については、基本的には今までのことを、北側大臣がおっしゃったことをそのまま行政の継続性でおっしゃられたということになっておりますので、今後政府・与党合意については、特に与党の皆さんで着工条件の変更等については大いに議論をしてほしいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

私は、最終的にはこの大臣も世論ではないかなと思うわけですね。世論でどうしても変わるんじゃないかなという感じもします、はっきり言って。国土交通大臣が沿線自治体の同意が必要だと言わしめるその根拠、それは世論を出して、今現在要らない、必要ないが55.2%で、必要が29%ということで、世論の支持が今ないからではないかなと思います。そのくらいのことじゃないかなと思います。今法律が二つあるからということで市長も言っておりましてけれども、結局最終的には何なのかと。世論ですよ、はっきり言って。私ははっきり言って、もうここに至っては、世論の支持がふえるためには、私はもうフル規格での新幹線しかないのではないかと考えております。もうほとめきません、市民も県民も。ほとめきと言うまいかなですね。ときめきませんね、はっきり言って。

市長と語る会のとをちょっと読んでいきたいと思います。

市長と語る会ですね。これは役所から資料をいただきましたけど、市長と語る会、平成18年10月25日7時30分、文化会館ミーティングホール、住民110人ということは、私と同じようなことを言う人があったんですね。住民の人が、せっかくつくるのであればフル規格で整備した方がいいのではということについて、市長は、フル規格とフリーゲージの説明をした後、当然フル規格がよいと思うが、既に既決済みのことであるということと言われております。あとずうっと言われておりますけれども、そこで、当然フル規格がよいと思うこの思いは、今も変わりませんか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

変わりません。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

市長と私は一緒の思いですね。いや、本当にうれしいですよ。

それで、後段のことについてちょっと私は考えてみたいと思うわけですよ。新幹線整備についても、後段というのは、既決済みのことだからということで市長も言われてぱっと切られておりますけれども、実は、新幹線整備の取り扱いについてということで、今市長もその前に説明をされた政府・与党合意、平成16年12月16日の書類をいただきました。で、確かに4番目に各線区の取り扱いということで、長崎ルートは軌間可変電車方式による整備を目指すということで、フリーゲージトレインで目指すということを書いておられます。

でも、9番目に、今後とも整備新幹線の取り扱いについては必要に応じて随時見直しを行うものとするということで、これは変わると思うわけですね。既決済みといえども、こう

いうふうに変えることができると思いますし、私たちも、平成18年11月30日、武雄市議会の新幹線に賛成の議員連盟で、ＪＲ九州と県を呼んで勉強会をしたわけですよ。私もいつものように、どうせつくるならフル規格で整備できんのでしょうかということでしたが、そのときに、ＪＲの人は、「私たちはよかとですよ、県がですね」という話やったわけですよ。それはほかの議員さんたちも皆さん聞いておられると思います。

そこで、県がフル規格をしない理由は何なのかと考えた場合、県の負担が大きいということになると思います。でも、負担が大きくてもしているところはたくさんあるわけですよ。私もちょっと調べましたけれども、フル規格で整備する東北新幹線の青森県と、佐賀県の財政状況を比較したわけですよ。それで、経常収支比率ですね、この数値が大きくなればなるほど、自由に使えるお金がないことを意味しますと書いていますね。小さい方がよかわけですね。これは、経常収支比率が佐賀県は90.4、青森県は95.2なんですよ。だから、佐賀県がいいんですよ。それで財政力指数、これは財政力指数が大きいほど財政力が強くなります。大きい方がいいですね、これは。この財政力指数は佐賀県が0.29、青森県は0.27ということで、これもまあどっこいどっこいですが、どっちかと言ったら佐賀県の方がよかとですよ。だから、財政的にきついかもわかりませんが、やろうと思えば私はできるんじゃないかと思うわけですよ。財政状況が悪い青森県でもフル規格でやっているわけでしょう。

それで、私は武雄がフル規格になった場合の負担を考えました。フリーゲージとフル規格での負担は、私は変わらないと思います。変わっても微々たるものですよ。それはなぜかといいますと、大体フリーゲージで整備した場合でも線路は複線化しなくちゃいけないので、今できている高架の横にもう一本高架ばつくらんばいかなわけですね。そういうことも考え合わせると、私は変わらんじゃなからうかなと思っております。地元自治体は、都市計画区域と下水道区域の分を負担するとなっておりますので、今武雄は実質５億円ぐらいの負担と想定しているようですけれども、これも私は変わらんではないかと思っておりますけれども、質問として、武雄市の負担はフルの場合どうなるのか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

○前田企画部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

先ほどのフル規格でやった場合の市の負担でございますが、これについては試算がありませんので、今のところわかりません。ただ負担については、武雄 - 諫早間については、これは国の方で決まっておりますが、武雄市が受益を受ける範囲について県と協議して決めるということになっております。そういうことで、今現在、負担が幾らになるかということとはわかっておりません。ただ、県の方のホームページを見ますと、先ほどの質問で武雄温泉駅が

ら新鳥栖駅をフル規格にした場合、その費用が4,100億円ということになっております。そのうちに県の負担が実質750億円という数字が出ております。そういうことで、県の負担については相当な額になるということを聞いております。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

県の負担が大きくなるということ、それはわかっていますよ。でも、そういう負担に耐えてやっている県もあるということだけはその前に説明しましたね。確かに今の建設費が2,700億円、これは全線フル規格にしたら、約3倍かかります。かといって、武雄の5億円が15億円になるわけじゃないんですよ。これはなりませんよ、はっきり言って。そんなに負担はないです。

で、この問題の最後になりますけれども、もう私は時間がなかと思うわけですね。もうこのままじゃ新幹線自体がだめになっとじゃなかかなと、もう大変危惧をしております。実は、この佐賀新聞、最初にちょっと御紹介しましたが、12月15日の佐賀新聞ですね、「自民党着工条件見直しの検討へ」というところで、鹿島市長はこういうことを言われているんですよ。

県民世論の大半が合意となり、我々がこの大プロジェクトのために犠牲になっていいと判断してから着工すべきだということを言われております。これは、裏を返せば県民世論が大半が合意になれば、そのときは仕方なかになって思いよんさっと一緒なんですよ。私はそう思います。そういうことをここに、私は私なりに解説をしましたけれども、そういうことを書いていらっしゃると思うんですよ。それで、市長は知事とメル友だと聞いております。質問として、知事にもう県民世論の大半を盛り上げるためにフル規格での整備しかない、そういうふうな進言をしていただきたいと思うわけですよ。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

佐賀県が武雄市だけだったら、私はその進言をしようと思っています。しかし、武雄市もあれば佐賀市もある、鳥栖市もある、そういう意味で、市長として、首長としては、佐賀県全体のことは考えんばいかんときのやっぱりあるわけですね。私は、そういう意味で、まずフリーゲージを通して、その後に政府・与党合意でありますように、本当に需要がそうなれば、そのときに私はフル規格の二段階ステップ論をとるべきだというふうに考えております。したがって、知事には早く頑張ってほしいと、新幹線を一日でも早く通してほしいということについては、またメールでしようかなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

○20番（松尾初秋君）〔登壇〕

それは確かに全体を見らんばいかんと思います。だからこそ新幹線を――もう時間がない、私はこのままでは本当にできないと思うんですよ。これがフルになったら、それは世論は盛り上がりますよ、はっきり言って。もう反対の人はもともと反対ですから。反対の中にも、やっぱり時間短縮効果のなさで反対しておる人もおると思います。ここはもう一発私はかけで、佐賀県全体のために、これはやっぱり市長が知事に対して進言をするべきではないかと思っております。

以上で私の質問は終わらせていただきます。